

主要産地における令和3年産水稻の生育状況等について 第8報 (7月16日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和3年7月16日)

道府県	生育状況等		(参考)	
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等		技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋) 令和3年度の品種構成等の情報
北海道	(生育)	<p>【生育状況(7月1日現在)】</p> <p>(全道)生育は平年並に進んでいる。(北海道農産部 7月7日付) (空知)生育は平年並である。(空知総合振興局 7月7日付) (石狩)好天により生育は進んだ。(石狩振興局 7月7日付) (後志)遅速は早1日。(後志総合振興局 7月7日付) (胆振)生育は平年並。(胆振総合振興局 7月7日付) (日高)生育は順調に進んでいる。(日高総合振興局 7月7日付) (渡島)生育は順調である。(渡島総合振興局 7月7日付) (樺山)生育はやや早い。(樺山振興局 7月7日付) (上川)生育の遅速は、平年並に推移している。(上川総合振興局 7月7日付) (留萌)生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 7月7日付) (オホーツク)高温多湿により生育は進んだ。生育は平年並である。(オホーツク総合振興局 7月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並に少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【高温に関する早期天候情報(北海道地方)】 今後2週間程度、気温が平年よりかなり高い日が多い。 (気象庁札幌管区気象台 7月15日)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p>	<p>・「ななつぼし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。 (農林水産省 3月23日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
青森	(生育)	<p>【7月10日現在(黒石)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「つがるロマン」は草丈が56.8cmで平年より2.2cm短く、株当たりの茎数は28.1本で2.9本少なく、葉数は10.7葉で0.3葉多かった。7月9日時点で、幼穂形成期に到達していなかった。 「青天の霹靂」は草丈が66.2cmで平年より1.6cm長く、株当たりの茎数は26.5本で1.6本少なく、葉数は9.4葉で0.3葉多かった。幼穂形成期の到達日は7月7日で平年より2日早かった。 「まっしぐら」は草丈が65.5cmで平年より1.2cm長く、株当たりの茎数は26.1本で0.6本少なく、葉数は10.3葉で0.3葉多かった。幼穂形成期の到達日は7月6日で平年より2日早かった。 <p>(十和田)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「まっしぐら」の生育状況は草丈が63.0cmで前年より4.0cm長く、株当たりの茎数は22.0本で4.5本多かった。幼穂形成期の到達日は7月3日で前年より3日早かった。 <p>(地独)青森県産産技術センター農林総合研究所 7月13日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並に少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>・斑点米カラムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北)(農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の高い「まっしぐら」が増加傾向にあり令和3年産も同様の傾向になるものと考えられる。</p>
岩手	(生育)	<p>【6月15日調査】</p> <p>・6月15日現在の生育(県平均)は、草丈31.7センチメートル(平年+1.6cm)、茎数は304本/平方メートル(平年+119%)、葉数は7.0葉で平年より0.3葉多い。 (岩手県 6月24日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並に少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>・斑点米カラムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北)(農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。県のオリジナル品種である「鉄河のしずく」が、耐冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	(生育)	<p>【7月9日現在(古川農業試験場「ひとめぼれ」)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 草丈は63.9cm(平年+111%)、1㎡当たりの茎数は634.5本(平年+108%)、葉数は10.4枚(平年+0.3枚)となっている。 幼穂長は1.9mm(平年+0mm)となっており、生育は概ね順調である。(宮城県 7月12日付) (大河原)草丈・茎数・葉数は平年並、葉色はやや淡い、幼穂長も平年並(概ね幼穂形成期に到達)。(大河原農業改良普及センター 7月9日付) (亘理)「ひとめぼれ」管内全ての調査地で、幼穂形成初期に達したか、まもなく到達する状況。幼穂形成期の「ひとめぼれ」生育量の目安(農作物指導員)との比較では、項目により違いはあるもの、目安と同程度の生育となっている。(宮城県亘理農業改良普及センター 7月13日付) (仙台)「移植「ひとめぼれ」1mm以上の幼穂長が確認され、「幼穂形成期」に入った。生育は前年より進んでいる。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月13日付) (大崎)生育は順調に進んでおり、草丈・茎数・葉数は概ね平年並。(宮城県大崎農業改良普及センター 7月14日付) (美里)5月中旬までに移植した場合は、幼穂形成期に入っている。出穂期は8月2日頃の予測(平年+8月3日)(宮城県美里農業改良普及センター 7月13日付) (栗原)「ひとめぼれ」では、草丈及び茎数は平年並、葉数は平年より少ない。(宮城県栗原農業改良普及センター 7月13日付) (石巻)7月8日現在の予測(北部平坦地帯)では、出穂期は平年より2～4日早まる見込み。(宮城県石巻農業改良普及センター 7月12日付) (気仙沼)管内生育調査における平年の出穂期は8月4日だが、本年度の幼穂形成状況から、生育が早い場合は7月31日頃に「出穂期を迎えたと予想される。(宮城県気仙沼農業改良普及センターほか 7月12日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並に少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>・斑点米カラムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北)(農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、近年、収量水準の高い「新えみのり」が増加傾向にある。</p>
秋田	(生育)	<p>(平鹿)7月5日現在 草丈50.9cm(平年+105%)、茎数563本/㎡(同+113%)、葉数10.2葉(同+0.4葉)。(7月9日付)</p> <p>(由利)7月5日調査、草丈は54.0cmで平年より長く(平年+110%)、㎡あたり茎数は557本で平年よりやや多い。(平年+102%) 中干しが続いているが、幼穂形成期に入っている圃場もある。(7月9日付)</p> <p>(鹿角)7月5日調査 草丈は46.8cm(平年+96%)と短く、茎数は855本/㎡(平年+102%)とやや多く、葉数は9.9葉(平年+10.0葉)と平年並。(7月8日付)</p> <p>(秋田)7月5日調査 「あきたこまち」の生育は草丈が51.3cm(平年+104%)、茎数が502本/㎡(平年+97%)、葉数が10.2葉(平年+0.2葉)となっている。(7月9日付)</p> <p>(山本)7月5日調査 草丈が53.5cm(平年+108%)、茎数が547本/㎡(平年+102%)、葉数が10.6(平年+0.6)。(7月9日付)</p> <p>(雄勝)生育は平年より3日程度早まっている。茎数は平年並に確保されている。(7月9日付)</p> <p>(秋田県農林政策課)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並に少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>・斑点米カラムシの発生が「多い」と予想される。 (北東北)(農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	(生育)	<p>【7月8日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「雪若丸」生育は、指標値に比べ、草丈と葉数は並、茎数は多く、葉色は濃くなっている。農業総合研究センターの調査では、出穂期は早い予想。(山形おいしき極める！米づくりプロジェクト本部 7月8日付) 「平坦野」の生育は、平年と比較して、草丈はやや長く、茎数はやや多く、葉数及び葉色は並となっている。農業総合研究センターの調査によると、出穂期は全般的にやや早い～早い予想。(山形おいしき極める！米づくりプロジェクト本部 7月8日付) <p>(最上)出穂期は、ほぼ平年並の見込み(最上総合支庁農業技術普及課 7月5日付)</p> <p>(北村山)管内の「つや姫」の生育は、葉数は指標よりもやや遅れているが、概ね平年並。出穂期は平年並と予想される。茎数も指標を確保している。(北村山農業技術普及課 7月2日付)</p> <p>(東南置置)7月8日現在の生育は、草丈は長く、茎数は平年並～やや多く、葉数、葉色は概ね平年並の状況。出穂期は平年より2日程度早い予想。(山形おいしき極める！米づくりプロジェクト置置地域本部実践班 7月13日付)</p> <p>(鶴岡田川)「雪若丸(6月30日現在)」普及課調査圃場の生育は指標を超え、十分な生育量を確保している。(庄内総合支庁 農業技術普及課 7月2日付)</p> <p>(村山)7月30日現在「つや姫」「雪若丸」とも平年値(指標値)に比べ、草丈はやや短く、茎数は「つや姫」では平年並、「雪若丸」では多く、葉数は並。(村山総合支庁農業技術普及課 7月2日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並に少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育)	<p>【6月29日現在】</p> <p>(農業総合センターの作柄解析試験コシヒカリの生育調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> 主幹出葉からみた生育は、本部と浜地域では6日早く、会津では4日早くなっている。 <p>(注)調査場所は、本部が郡山市、会津地域が会津坂下町、浜地域が相馬市。 (福島県 7月8日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並に少なく、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「天のつづ」が増加傾向となっている。</p>
茨城	(生育)	<p>【水戸】(7月9日現在 対平年遅速)(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月13日付)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月30日移植「あきたこまち」2日早い、「ふくまるSL」1日早い、「コシヒカリ」1日早い。 幼穂長から予測される出穂期は「あきたこまち」で7月15日、「ふくまるSL」で7月16日、「コシヒカリ」で7月25日。 6月10日移植「コシヒカリ」平年並。 <p>【龍ヶ崎】(7月6日現在 対平年遅速)(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月12日付)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月27日移植「あきたこまち」2日遅い、「ふくまるSL」1日早い、「コシヒカリ」1日遅い。 今後気温が平年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は「あきたこまち」で7月13日頃、「ふくまるSL」で7月14日頃、「コシヒカリ」で7月24日頃。 6月7日移植「コシヒカリ」3日遅い。 今後気温が平年並に推移した場合、幼穂長から予測される出穂期は7月31日頃。 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並に多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>・綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。(関東)(農林水産省 7月7日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、収量水準の高い「あきたの夢」及び「ふくまる」が増加傾向となっている。</p>

生育状況等			
栃 木	<p>【「コシヒカリ」「とちぎの星」 7月6日調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の生育量はほぼ平年並。 前回の調査時では生育量が過剰気味であった場合は、平年並の生育量に近づいた。 農業試験場（宇都宮市）のコシヒカリ（5月7日移植）の出穂期は7月27日頃の予測（平年の出穂期8月1日より5日早い）。 <p>（栃木県 7月12日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <ul style="list-style-type: none"> 綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。（関東）（農林水産省 7月7日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「なびかり」及び「とちぎの星」が増加傾向にある。
千 葉	<ul style="list-style-type: none"> 7月上旬は日照時間が少なく、気温が低く推移したため、生育の進みはややブレーキがかかった。 4月20日植えの出穂期は、「ふさおとめ」が7月9日から、「ふさこがね」が7月11日から迎えている。 「コシヒカリ」「粒すけ」とともに7月16日から出穂期を迎える。各品種ともに出穂期は平年並～やや遅くなっている。5月1日植えた「コシヒカリ」は7月20日から、平年並～やや早く出穂期を迎えると予測される。 <p>（千葉県 7月14日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <ul style="list-style-type: none"> 綿葉枯病の発生が「多い」と予想される。（関東）（農林水産省 7月7日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。
新 潟	<p>【7月8日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」の生育は、県全体では指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みと葉色は「並」、茎数と葉色の地域差、ほ場差が大きくなっている。 「新之助」の生育は、指標値に比べ、草丈は「やや短い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みと葉色は「並」、茎数と葉色の地域差、ほ場差が大きくなっている。（新潟県農林水産部 7月9日付） <p>【7月8日現在】</p> <p>（村 上）「コシヒカリ」の出穂期は、平年に比べ2日程度早まる見込み。（村上農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>（新 潟）「コシヒカリ」は草丈、茎数、葉数、葉色とも指標値並の生育。中生、晩生とも出穂期は平年並の見込み。（新潟県農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>（三 条）生育は指標値並で順調。「コシヒカリ」の出穂期は平年並（三条農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>（魚 沼）「コシヒカリ」の出穂期は平年並と予想（魚沼農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>（十日町）「コシヒカリ」の生育は、草丈：やや短い、茎数：多い、葉数の進み：並。（十日町農業普及指導センターほか 7月8日付）</p> <p>（上 越）「コシヒカリ」の出穂期は平年並（8/2頃）、「こしいぶき」の出穂期は前年並み（7/26頃）と見込まれる。（上越農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>（糸川川）調査ほ場の平均では、草丈は短、茎数、葉数、葉色は並。（糸川川農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>（佐 渡）草丈と葉色は指標値並だが、茎数が過剰傾向。（佐渡農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>（柏 崎）（予想出穂期）「こしいぶき」7月25日、「コシヒカリ」8月4日。（柏崎農業普及指導センター 7月8日付）</p> <p>（長 岡）（7月5日現在）出穂期は、昨年より1日早く、平年並の予想。（長岡農業普及指導センター 7月8日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>北陸地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <ul style="list-style-type: none"> ニカメイガ、いもち病、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。（北陸）（農林水産省 7月7日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」、「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品種「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。
富 山	<p>【本県での生育状況】（7月13日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」平年に比べて、草丈、茎数、葉色は並、葉齢はやや遅れている。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より2日遅い8月4日頃と見込まれる。 「てんこもり」平年に比べて、草丈、茎数、葉齢、葉色は並となっている。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より3日遅い8月7日頃と見込まれる。 「てんたかく」5月3日移植の「てんたかく」の出穂期は、7月19日頃と見込まれる。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月24日頃と見込まれる。 「富富富」近年に比べて、草丈、茎数、葉色は並み、葉齢は遅れている。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より2日遅い8月6日頃と見込まれる。 <p>（富山県 7月13日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>北陸地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <ul style="list-style-type: none"> ニカメイガ、いもち病、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。（北陸）（農林水産省 7月7日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温多湿でも品質が安定している「てんこもり」及び「富富富」が増加傾向にある。
石 川	<p>【7月8日調査】【品種別地域別出穂期予想】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ゆめみづほ」加賀：7月16日～7月20日（平年に比べ1～2日程度早い）。能登：7月21日頃（近年より2日程度早い）。 「能登ひかり」能登：7月20日～24日（近年に比べ1日程度早い）。 「コシヒカリ」加賀：7月27日～7月31日（平年より3日程度早い～平年並）。能登：7月30日～8月4日（平年に比べ2～4日程度早い）。 <p>（石川県農林総合研究センター 7月9日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>北陸地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <ul style="list-style-type: none"> ニカメイガ、いもち病、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。（北陸）（農林水産省 7月7日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年県オリジナル品種の「ひやくまん穀」が増加傾向にある。
福 井	<p>【7月8日調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> いもち病が広域発生している。 ニカメイガ、斑点米カメムシ類の発生が多い。 移植コシヒカリは来週に幼穂形成期となる見込み。 <p>（福井県ほか 7月9日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>北陸地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁新潟地方気象台）</p> <ul style="list-style-type: none"> ニカメイガ、いもち病、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想される。（北陸）（農林水産省 7月7日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお新品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。
長 野	<p>【農業試験場八重森圃場（標高348m）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移植後40日の生育は、いずれの品種（あきたこまち、コシヒカリ、風さやか）も主稈葉数がやや遅れ、草丈、茎数は平年並である。幼穂形成期は、「あきたこまち」で平年より1日、「コシヒカリ」で2日遅い。（長野県農業試験場 7月16日付） <p>【農業試験場原村試験地（標高1,017m）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移植後50日の生育は、いずれの品種も主稈葉数は平年並み、草丈はやや遅れ、茎数は少ない傾向である。幼穂形成期は、平年より「きりりん」で5日遅く、「ゆめしなの」で2日遅かった。（長野県農業試験場 7月16日付） <p>【伊那米総合試験地（伊那市美葉）】（7月2日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊那米試験地の田植え50日後の生育状況は、「コシヒカリ」で草丈は平年より短く（92%）、茎数は平年より多く（107%）なっている。酒米の茎数は平年並だが、他の品種は「コシヒカリ」と同様の傾向。（上伊那農業農村支援センター 7月2日付） <p>【安曇野市豊科 標高550m 5月15日植（稲苗）「コシヒカリ」「あきたこまち」】（7月7日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あきたこまち」は7月4日（平年より2日早）、「美山錦」は7月6日（平年より1日早）に幼穂形成期を迎えた。「コシヒカリ」も平年より1～2日程度早く幼穂形成期を迎えると予想される。（松本農業農村支援センター 7月9日付） 	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁東京管区気象台）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県オリジナル品種として「風さやか」の導入を推進している。
滋 賀	<p>【農業技術振興センター水稲作況調査（5月10日移植）】（みずかがみ、コシヒカリ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みずかがみ」、「コシヒカリ」とも、茎数は6月中旬までは平年より少なかったが、6月下旬以降は平年並に推移している。 幼穂形成期は、「みずかがみ」は7月1日、「コシヒカリ」は7月5日と、両品種とも平年より2日遅く、「みずかがみ」は7月24日頃に移植を迎える見込み。 県内ほ場では、移植日やほ場条件による生育に差は見られるものの、概ね平年並に幼穂形成期を迎えている。 <p>（滋賀県農業技術振興センター 7月9日付）</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>近畿地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>近畿地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。（気象庁大阪管区気象台）</p> <ul style="list-style-type: none"> トビロウカガの発生が「多い」と予想される。（近畿）（農林水産省 7月7日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。

生育状況等			
兵 庫	<p>【6月29日現在】</p> <p>(県北)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリの葉齢の進展は平年より遅く、草丈はやや長く、莖数はかなり少ない。 遅植えでは葉齢の進展は平年よりやや遅く、草丈はかなり長く、莖数は多い。 <p>(生育)</p> <p>(県北以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉齢の進展は平年よりやや早く、草丈は平年並みからやや低い。 <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>近畿地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>近畿地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トビイロウンカの発生が「多い」と予想される。(近畿)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。
岡 山	<p>【6月21、22日巡回調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極早生種の生育は概ね平年並である。 <p>(岡山県 6月30日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(中国)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。
広 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>中国地方の向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>中国地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斑点米カメシの発生が「多い」と予想される。(中国)(農林水産省 7月7日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
愛 媛		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネミズゾウムシ、綿葉枯病、いもち病の発生が「多い」と予想される。(四国)(農林水産省 6月9日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
高 知	<p>(早期稲)</p> <p>6月上旬は比較的天候に恵まれていたため生育は概ね順調であった。しかしながら、4月下旬～5月上旬の低温や5月中旬に日照時間が少なかった事などから、県中央部や東部では分けつ数ややや少ない傾向であり、収量への影響が懸念されている。</p> <p>(普通期稲)</p> <p>梅雨の影響などで定植作業が遅れたり、一部では生育不良や障害の発生、苗いもちにより植え直しをしたほ場があるため生育にばらつきが見られるが、全般的には生育は概ね順調である。</p> <p>(高知県病害虫防除所 7月6日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネミズゾウムシ、綿葉枯病、いもち病の発生が「多い」と予想される。(四国)(農林水産省 6月9日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。
福 岡	<p>【7月1日現在】</p> <p>(1) 早生水稲(夢つくし、コシヒカリ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、幼穂形成期～穂ばらみ期で、草丈はやや高く、莖数はやや少ない。病害虫は、ウンカ類の発生がやや多い。移植後の低温の影響で、初期生育はやや遅れていたが、5月中旬からの高温により、生育は回復しており、出穂期は平年並の7月8～15日頃の見込み。 <p>(2) 普通期水稲(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植えの最盛期は、「夢つくし」が6月5～12日頃、「元気つくし」が6月20日頃、「ヒノヒカリ」が6月26日頃であり、麦の収穫が早かったことから平年よりやや早く進んでいる。苗の活着は概ね良好で、生育は順調だが、一部では、移植後に降雨が少なく、ほ場の乾燥も見られる。 <p>(福岡県農林業総合試験場 7月1日付)</p> <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高く、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後新品種「実りつくし」の拡大を推奨している。
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高く、降水量、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州北部地方の3か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に、大きな変化はない。
宮 崎	<p>【作物の生育状況(6月中旬)】</p> <p>(生育)</p> <p>早期水稲は穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月24日)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「み系358」への作付誘導が進められている。
鹿 児 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月17日～8月16日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の気温は平年並か高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、早期栽培において収量水準の高い「なつほのか」が増加傾向であり、「コシヒカリ」との価格差も小さいことから今後も移行が進むことが予想される。

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和3年7月16日 14時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で表している。

引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道 7月7日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月7日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月7日)、
農作物生育状況調査の概要 令和3年7月1日現在(北海道留萌振興局 7月7日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月7日)、
作況調査報告(7月10日現在の生育状況)(地独)青森県産業技術センター・農林総合研究所 7月13日)、
農作物技術情報第4号要約(岩手県)(6月24日)、
令和3年産水稲の生育状況について(7月9日現在)(宮城県 7月12日)、
令和3年産山稲作情報(第4号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月9日)、
令和3年稲作情報第5号(宮城県亶理農業改良普及センター 7月13日付)、
仙台稲作情報2021(第6号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月13日)、
令和3年産美里地区の稲作情報第6号(宮城県美里農業改良普及センター 7月13日)、
令和3年産気仙沼・南三陸稲作情報第7号(宮城県気仙沼農業改良普及センターほか 7月12日)、
令和3年産大崎稲作情報第6号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月14日)、
稲作情報(vol.5)(宮城県石巻農業改良普及センター 7月12日)、
栗原の稲作通信令和3年第5号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月13日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月16日閲覧)、
雪若丸技術情報No.6(山形おいしさを極める!米づくりプロジェクト本部 7月8日)、
米づくり技術情報第7号(山形おいしさを極める!米づくりプロジェクト本部 7月8日)、
つや姫だより穂肥編(北村山農業技術普及課 7月2日)、
つや姫雪若丸通信第3号(山形おいしさを極める!米づくりプロジェクト村山地域本部ほか 7月2日)、
雪若丸情報穂肥診断編(庄内総合支庁農業技術普及課 7月2日)、
稲作だより第9号(最上総合支庁農業技術普及課 7月5日)、
東南おきたま米づくり情報No.9(山形おいしさを極める!米づくりプロジェクト置賜農業技術普及課 7月13日)、
主要な農作物の生育情報令和3年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月13日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所 7月12日)、
令和3(2021)年度水稲生育診断予測事業速報No.4(栃木県 7月12日)、
水稲の生育と当面の対策第5報(千葉県 7月14日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第5号)(新潟県 7月9日)、
岩船米生育速報(7月8日現在)(村上農普及指導センター 7月8日)、
コンヒカリ生育情報第5号(魚沼農業普及指導センター 7月8日)、
稲作速報No.5(新潟農業普及指導センター 7月8日)、
稲作情報No.5(長岡農業普及指導センター 7月8日)、
FAX稲作情報No.7(三条農業普及指導センター 7月8日)、
十日町地域稲作生育速報(令和3年7月8日)(十日町農業普及指導センターほか 7月8日)、
コンヒカリ・こいぶき生育速報No.5(上越農業普及指導センター 7月8日)、
稲作管理情報第6号(柏崎農業普及指導センター 7月8日)、
令和3年度糸魚川売れる米づくりコンヒカリ生育情報No.5(糸魚川農業普及指導センター 7月8日)、
令和3年度稲作生育速報No.5(佐渡農業普及指導センター 7月8日)、
TACS情報第8号(富山県 7月13日)、
令和3年産水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-7号)(石川県農林総合研究センター 7月9日)、
稲作情報No.10(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月9日)、
令和3年作物技術普及情報第12号(松本農業農村支援センター 7月9日)、
農業試験場水稲試験圃の生育状況(令和3年)(長野県農業試験場 7月16日)、
水稲高標高試験圃の生育状況(令和3年)(長野県農業試験場 7月16日)、
伊那米総合試験地水稲奨励品種決定ほ生育状況(上伊那農業農村支援センター 7月2日)、
令和3年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月9日)、
令和3年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県 7月5日)、
令和3年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 6月30日)、
病害虫発生予察情報について(高知県病害虫防除所 7月6日)、
福岡県の主な農産物の生産情報(福岡県 7月1日現在)、
令和3年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月24日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月15日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月15日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月15日気象庁)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月15日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月15日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月15日広島地方気象台)、
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月15日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月15日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月15日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(6月25日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(6月25日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(6月25日気象庁)、
北陸地方こう3か月の天候の見通し(6月25日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(6月25日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(6月25日広島地方気象台)、
四国地方こう3か月の天候の見通し(6月25日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(6月25日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(6月25日鹿児島地方気象台)、

高温に関する早期天候情報(北海道地方)(7月15日14時30分 札幌管区気象台)、

令和3年度病害虫発生予報第4号(農林水産省 7月7日)、
令和3年産水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月23日)